

「哲学と大学——近代の哲学的大学論の系譜学と人文知の未来」

哲学を通じて、大学において、現在、私たちは何を知りうるのか、
何をなすべきか、何を希望することを許されているのか。



La rue de la Sorbonne le 11 mars 2006, photo: Wikimedia Commons

近代の大学の誕生は、哲学の学問的覇権の確立と不可分である。フンボルトのベルリン大学建設以来、哲学は学問の有機的統一性を保証し、大学の理念を支えるものとされてきた。大学における哲学の地位の後退は、それゆえ、20世紀を通じて明らかになる「哲学の死」と深く関係する。また、哲学の他分野（文学・芸術・社会・政治・人類学・精神分析）との混交によって、伝統的な人文学の枠組みは複雑な仕方で変容し続けている。

本共同研究の目的は、各哲学者の大学論を批判的に考察することで、哲学と大学の制度や理念との関係を問い直すことである。これは哲学と大学をめぐるある種の「没落の歴史」の考察となるだろう。

カント、フンボルト、フィヒテ、シェライアーマッハー、シェリング、ヘーゲル、ニーチェ、ハイデガー、オルテガ、ヤスパース、デリダ・・・近代において、ほとんどの哲学者は大学教師である。彼らはその歴史的・社会的状況において、教師として大学制度のなかでどのように振舞ったのか。彼らはその大学論においていかなる哲学的

主張を展開しているのか。そうした大学論は彼らの哲学の理論や実践においていかなる位置を占めるのか。哲学と大学をめぐる議論のなかから、各哲学者の教育法や教育論、学問論、教養論、人間論、人文学論といった主題も浮かび上がってくるだろう。

公開研究会日程 (日程の詳細や変更に関しては、UTCPのHPでご確認ください)

東京大学駒場キャンパス101号館2F研修室にて16:30から開始。UTCPメンバー以外の方でも聴講自由。

- 11月1日(木) 西山雄二(東京大学) 「ビル・レディングス『廃墟のなかの大学』の衝撃」
- 12月6日(木) 宮崎裕助(東京大学) 「カントの大学論『諸学部争い』をめぐる」
- 1月28日(月) 齊藤渉(大阪大学) 「フンボルトにおける大学と〈教養〉」
- 3月 藤田尚志(日本学術振興会) 「フランスのエリート教育の光と影」
- 4月 宮崎裕助 「英米圏における人文学論の現状」
- 5月 早尾貴紀(東京大学) 「ヘブライ大学初代学長ユダー・マグネスにとってのイスラエル国家建設と大学」

シンポジウム 「哲学と大学」 2008年2月23日(土)

- 大場淳(広島大学) 「ヨーロッパの高等教育再編と人文科学への影響」 コメント：藤田尚志
- 大河内泰樹(埼玉大学) 「ヘーゲルにおける大学と哲学」 コメント：岩崎稔(東京外国語大学)
- 西山雄二 「哲学、教育、大学をめぐるジャック・デリダの理論と実践」 コメント：宮崎裕助
- 全体討議 「日本の大学の現状と人文科学の未来」 岩崎稔、大場淳、小林康夫(東京大学) 司会：西山雄二